

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21530809

研究課題名(和文) 大学入試における小論文とリテラシー能力の育成に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study on developing cultural literacy and essay writing skills in the Japanese university entrance examination

研究代表者

石川 巧 (ISHIKAWA, Takumi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：60253176

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：大学入試における小論文・作文の歴史研究として『「いい文章」ってなんだ 入試作文・小論文の歴史』(ちくま新書)を刊行した。また、近代日本におけるリテラシー能力のありようを考える過程で論文集『高度経済成長期の文学』(ひつじ書房)、『「月刊読売」解題・詳細総目次・執筆者索引』(三人社)をまとめることができた。大学生のリテラシー能力を涵養するためのテキストとして『戦争を読む』(ひつじ書房)を編んだ。個別の研究としては「雑誌「小説春秋」はなぜ歴史の後景に消えたのか? 附・総目次」(「敍説」-10)、「戦前における近代文学の教科書」(「日本文学」727)など15本の論文を書き、口頭発表も行った。

研究成果の概要(英文)：Firstly, I have published a book titled What does it all mean to write an excellent essay in the perspective of the history of examination? (Chikuma Shobou, 2010) as a result of research project on the history of essay writing in the Japanese university entrance examination. Secondly, I have published another book, Collected Papers on Japanese literature in the period of rapid economic growth from the 1950s to 1980s (Hitsuji Shobou, 2012), which has been completed in the process of considering the state of literacy in modern Japanese. Thirdly, I have published, as one of editors, The Reading of Wars (Hitsuji Shobou, 2013), for the purpose of improving cultural literacy in university students. Fourthly, I have written fifteen papers, including Why did the magazine SHOSETSU SHUNJYU disappear in the history? --- with the appendix: the complete table of contents of the magazine--- (Josetsu 10, 2013), and A Textbook on modern literature in the Pre-War (NIHON BUNGAKU No.727, 2013).

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：大学 入学試験 リテラシー 小論文 国語 文章表現 教育 文学

1. 研究開始当初の背景

大学入学試験にマークシート方式が導入されて以降、受験生の文章表現力を見極める手段として急速に発達した科目に小論文がある。だが、受験科目としての小論文に関しては、その評価基準なども曖昧なままであり、受験科目としての客観性がほとんど問われないまま、各大学の個別的判断に委ねられている状況である。本研究は、歴史的経緯を踏まえながらそうした現状を明らかにし、小論文入試の内容、受験対策のあり方、授業との関係などを検証しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、日本の高等教育においてリテラシー能力というものがどのように位置づけられ、どのような方法を用いてその能力向上が図られてきたかを総合的に考察することである。また、そうした検証を行うことによってこれからの高校教育・大学教育における現代教科目のあり方、リテラシー能力を向上させるための教育プログラム、授業カリキュラムについても一定の提言を行うことができると考えた。具体的には、(1) 論文入試にどのような文章が出題され、どのような設問が用意されてきたのかという観点に立ち、1960年代後半から現在までの入試問題を解析する。(2) 教科書や読本、参考書の記述内容を分析することによって、小論文入試において求められてきたリテラシー能力とはどのようなものであったかを考察する。(3) 高度経済成長期以降の文学教育のあり方と、その影響下に育った学生のリテラシー能力の相関性について検証する。(4) リテラシー能力の育成という観点から文部省の政策や教育思想を検証し小論文という科目の社会的・政治的な役割を明らかにする。(5) 特に選択問題やマークシートの導入によって、文章の読解能力のあり方がどのように変化してきたかを検証し、将来の大学入試における小論文の問題作成に関する知見を示す。

——以上を目的として掲げた。

3. 研究の方法

本研究では、まず初年度に研究対象とする1960年代後半から現在までの小論文入試に関する試験問題、参考書、同時代の受験雑誌、入学試験に関する諸資料などを収集し、その内容をデータベース化していく作業を行った。また、そこで収集した情報をもとに、入学試験の出題文、設問傾向、出題文の作者、各学校の特色などについて分析を行い、小論文そのものの歴史と変化を詳細に分析した。さらに、そこで収集した情報をもとに、入学試験の出題文、設問傾向、出題文の作者、各学校の特色などについて分析を行い、小論文そのものの歴史と変化を詳細に分析した。代表者は本研究に着手する以前に、入試現代文関連の論文8本と著書1冊を発表しており、事実上、研究活動は始動していたわけだが、科学研究費を取得することで資料をより効率的に入手し、近代日本におけるリテラシー能力の育成という問題にまで範囲を広げて、問題を総合的な観点から研究できたと考えている。

4. 研究成果

この5年間の研究を通じて、本研究テーマに関連する単著を3冊発行するとともに、編著1冊、論文11本を発表した。特に、『「いい文章」ってなんだ——入試作文・小論文の歴史』（ちくま新書・2010年）は、本研究の中核的な課題をまとめたものであり、巻末にはデータベースとして作成した戦前期の作文課題一覧なども収録した。また、論文「戦前における近代文学の教科書」（『日本文学』2014年）では、特に戦前の高等教育機関における文学教育の諸相を実証的に研究し、文章表現の規範がどのようにして形成されていったのかを明らかにした。また、こうした研究活動をふまえて、現在、朝日新聞社とベネッセが主催している「語彙・読解力検定試験」の問題作成やコンセプトのプランニングに携

わり、文章を理解するとはどういうことか、よりよい文章を書くためにはどのような能力が必要なのかを探究している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

石川巧「戦前における近代文学の教科書」(『日本文学』727号、P61-72、日本文学協会、2014年1月・査読有)

石川巧「久保田万太郎のト書き—小説と戯曲の溶解」(『国語と国文学』1080号 P100-113、東京大学国語国文学会、2013年11月・査読有)

石川巧「『美しい!』から『美しき墓』へ—川端康成における方法的転回」(『立教大学日本文学論叢』第13号 P71-102、2013年10月・立教大学大学院・査読無)

石川巧「雑誌『小説春秋』はなぜ歴史の後景に消えたのか?—附・総目次」(『敍説』第10号 P167-211、花書院出版、2013年9月・査読無)

石川巧「土族の矜持—松本清張『啾々吟』論」(『松本清張研究』第14号 P53-66、北九州市立松本清張記念館、2013年3月学国語国文学会、2013年11月・査読無)

石川巧「被爆者はどこに行ったのか?—占領下の原爆言説をめぐって」(『Intelligence』第13号 P92-104、2013年3月、20世紀メディア研究所インテリジェンス編集委員会・査読有)

石川巧「雑誌『四国春秋』解題と総目次」(『日本文学論叢』第11号 P177-241、2011年8月・立教大学大学院・査読無)

石川巧「教育言説のなかの有島武郎」(『有島武郎研究』第12号 P17-38、2009年10月・有島武郎研究会・査読有)

石川巧「戦前期・高等教育の入学試験における『作文』課題一覧」(『九大日文』第14号 P32-79、九州大学、2009年10月・九州大学日本語文学会・査読無)

石川巧「作家としての立場をつくるということ—『川端康成/三島由紀夫 往復書簡』を読む」(共著『書簡を読む』P1-31、春

風社、2009年10月・査読無)

石川巧「太宰治の読まれ方 読書感想文の世界に生き延びる『人間失格』」(共著『新世紀 太宰治』P93~109、双文社出版、2009年6月・査読無)

[学会発表](計10件)

石川巧 一揆の表象—群衆を描くとはどういうことか?(昭和文学会秋季大会於・金城学院大学 2013年11月9日)

石川巧 占領下の原爆言説—カストリ雑誌は何を伝えたか(20世紀メディア研究会於・早稲田大学 2012年9月29日)

石川巧 ネゴシエーションとしての文学—菊池寛が描いた法と法廷(日本近代文学会春季大会・特集「法と文学」於・二松学舎大学 2012年5月29日)

石川巧 占領下の原爆言説—カストリ雑誌は何を伝えたか(原爆文学研究会 於・福岡大学セミナーハウス 2012年3月17日)

石川巧 占領期の福岡における製紙・印刷・出版(福岡市史特別編『近代福岡の文化とメディア』研究会、2011年11月5日)

石川巧 大学は何を期待しているのか—小論文におけるBとCの谷間(第一学習社主催・教育講演会 帝京平成大学・2011年8月5日)

石川巧 横溝正史と高度成長期—社会派ミステリーの台頭(講座・横溝正史とミステリー文学の時代 東大島文化センター・2011年7月14日)

石川巧 同棲小説論(日本近代文学会九州支部秋季大会 熊本大学・2010年11月)

石川巧 「いい文章」ってなんだ?(長崎純心大学公開講座+国語教育研修会 長崎市 2010年7月17日)

石川巧 文章はどのように評価されてきたのか—明治中期における入試作文の導入と普及(第9回・九大日本語文学会 九州大学・2009年10月11日)

[図書](計7件)

単著 石川巧『『月刊読売』解題・詳細総目次・執筆者索引』(三人社、2014年1月・386頁)

共著 石川巧・川口隆行共編『戦争を読む』(ひつじ書房、2013年3月・264頁 担

当 3-4、19、37、70-87、178-193、262-263、
計 43 頁)

単著 石川巧『高度経済成長期の文学』(ひ
つじ書房、2012年2月・564頁)

単著 石川巧『「いい文章」ってなんだー
入試作文・小論文の歴史』(ちくま新書、2010
年6月・270頁)

共著 石川巧・吉田秀樹共編著『川端康成
作品論集成 浅草紅団』(おうふう、2009年
12月・279頁 担当 3-6、131-152、計 26頁)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 巧 (ISHIKAWA, Takumi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号: 60253176

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: